

日本建築学会 地球環境委員会 公開委員会  
共催 SDGs対応推進特別調査委員会、低炭素社会推進会議

# 人類非常事態 新型コロナ・気候非常事態に応答し 脱炭素社会に向けて

世界的に「気候非常事態宣言」が出され脱炭素社会構築への方向転換が迫られる。これに新型コロナウイルス禍が加わり、人口過密化・都市化・全地球的移動等を要因として持続可能な世界は危機に瀕している。今日の地球変動を完新世から「人新世」時代と捉えられ、可変する自然（地球）と人間（精神）のつながりを再認識するアクターネットワーク論者のブルーノ・ラトゥールは、この状況を「新気候体制」と捉え、デカルト以降の近代技術主義からの脱近代思考の下に解決を探ることを主張する。異常気候対策、新型コロナ対策、脱炭素社会における建築・都市・地域の創造のため処方箋はどうあるべきか、近代価値転換を主旨説明し（糸長）、その後、人新世の持つ意義・価値と理念に基づく建築学の変革への期待（篠原）、世界の気候非常事態宣言の動向と、国・自治体・企業での対策の他若者たちの行動（山本）、仏での大統領諮問の幅広い国民参加での脱炭素社会政策提案（ブリス）、ポストコロナ時代の社会経済システム展望（外岡）、スラム世界でのコロナ対策と脱炭素展望（久保田）、ゼロカーボンシティの構築・新型コロナ対策（中島）を述べる。気候非常事態にどう対処すべきか、科学技術学としての建築学の転換、さらに新たな解決方向について多面的な討論を行う。

2021年2月17日（水）午後1時～5時

会場 zoom ウェビナー <https://us02web.zoom.us/j/83579554541>

参加費 無料

参加者 会員、一般市民、誰でも可（申込み不要）

問い合わせ先 日本建築学会事務局 榎本 [enomoto@aij.or.jp](mailto:enomoto@aij.or.jp)

司会 岩本静男（神奈川大学）  
副司会 田中稲子（横浜国立大学）  
記録 小野尋子（琉球大学）  
主旨説明 糸長浩司（地球環境委員長、日本大学）  
主題解説

## ①人新世

新型コロナ禍での人間条件への哲学的考察 篠原雅武（京都大学）

②気候非常事態宣言 山本良一（東京大学）

③フランスの異常気候とマクロン諮問の市民会議提言  
浅沼＝ブリス・セシル（フランス国立科学研究センター（CNRS））

④Paris協定達成に向けたポストコロナ時代の社会システム設計と国土利用  
外岡 豊（埼玉大学）

⑤スラムからの応答 久保田徹（広島大学）

⑥カーボンニュートラル実現に向けて  
中島恵理（環境省脱炭素化イノベーション研究調査室長）

討論 高口洋人（早稲田大学）  
まとめ